

第2章 平面上のベクトル 2・ベクトルと図形

1 位置ベクトル(その1)

(1/8) ■ 分点の位置ベクトル ■

位置ベクトル

★知識の整理★

【1】位置ベクトルとは？

平面上で、点Oをあらかじめ定めておくと、この平面上の点Aの位置は、

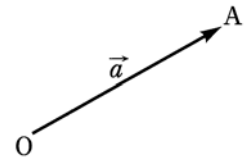
$$\overrightarrow{OA} = \vec{a}$$

というベクトル \vec{a} で決まる。

この \vec{a} を、Oを基点としたときの点Aの位置ベクトルという。

また、位置ベクトルが \vec{a} である点Aを、 $A(\vec{a})$ と表す。

このように、平面上の点は位置ベクトルで表されることになる。



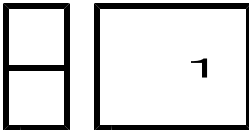
平面上の2点 $A(\vec{a})$ 、 $B(\vec{b})$ に対して、

$$\overrightarrow{AB} = \overrightarrow{OB} - \overrightarrow{OA}$$

であるから、次のことがいえる。

▼ 位置ベクトルによる表示 ▼

2点 $A(\vec{a})$ 、 $B(\vec{b})$ に対して、 $\overrightarrow{AB} = \vec{b} - \vec{a}$



分点の位置ベクトル

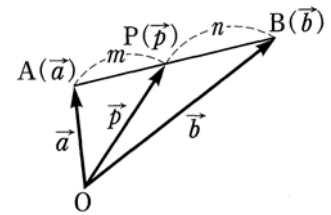
★知識の整理★

【1】内分点の位置ベクトル

2点A(\vec{a}), B(\vec{b})に対して, 線分ABを $m:n$ に内分する点Pの位置ベクトル $\vec{p} = \vec{OP}$ を求めてみよう。

$$\begin{aligned} \vec{OP} &= \vec{OA} + \vec{AP} \\ &= \vec{a} + \frac{m}{m+n}(\vec{b} - \vec{a}) \\ &= \frac{\vec{a}(m+n) + m(\vec{b} - \vec{a})}{m+n} \\ &= \frac{m\vec{a} + n\vec{a} + m\vec{b} - m\vec{a}}{m+n} \\ &= \frac{n\vec{a} + m\vec{b}}{m+n} \end{aligned}$$

◀ベクトルの和



$$\begin{aligned} \vec{AP} &= \frac{m}{m+n} \vec{AB} \\ &= \frac{m}{m+n} (\vec{b} - \vec{a}) \end{aligned}$$

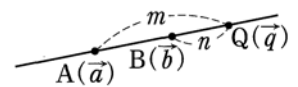
よって, $\vec{p} = \vec{OP} = \frac{n\vec{a} + m\vec{b}}{m+n}$ ◀内分点の位置ベクトル

【2】外分点の位置ベクトル

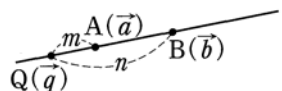
2点A(\vec{a}), B(\vec{b})に対して, 線分ABを $m:n$ に外分する点Qの位置ベクトル $\vec{q} = \vec{OQ}$ は, $m > n$, $m < n$ のいずれの場合でも, 次のように, 内分点の位置ベクトルの n を $-n$ に置きかえた式になります。

$$\vec{q} = \vec{OQ} = \frac{-n\vec{a} + m\vec{b}}{m-n} \quad \text{◀外分点の位置ベクトル}$$

$m > n$ のとき



$m < n$ のとき



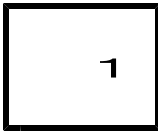
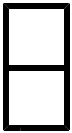
* 証明を知りたい人は, 教科書や参考書などを調べてください。ここで大切なことは, この公式を問題の中で使えることであって, 証明ができることではありません。

【3】中点の位置ベクトル

◀中点は1:1に内分する点

とくに, 線分ABの中点Mの位置ベクトル \vec{m} は

$$\vec{m} = \frac{\vec{a} + \vec{b}}{2} \quad \text{◀中点の位置ベクトル}$$



第2章 平面上のベクトル 2・ベクトルと図形

1 位置ベクトル (その1)

(3/8) ■ 分点の位置ベクトル ■

★解法の技術★

2点 $A(\vec{a})$, $B(\vec{b})$ について, 次の点の位置ベクトルを \vec{a} , \vec{b} を用いて表しなさい。

- (1) 線分 AB を $2:3$ に内分する点 C
- (2) 線分 AB を $2:3$ に外分する点 D
- (3) 線分 AB の中点 M

[答 案]

$$(1) \vec{OC} = \frac{3\vec{a} + 2\vec{b}}{2+3} = \frac{3\vec{a} + 2\vec{b}}{5}$$

$$(2) \vec{OD} = \frac{-3\vec{a} + 2\vec{b}}{2-3} = \frac{-3\vec{a} + 2\vec{b}}{-1} = 3\vec{a} - 2\vec{b}$$

$$(3) \vec{OM} = \frac{\vec{a} + \vec{b}}{2}$$

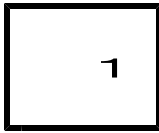
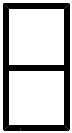
◇ 《分点の位置ベクトル》 学力化 → /

★理解のチェック★

3点 $A(\vec{a})$, $B(\vec{b})$, $C(\vec{c})$ について, 次の点の位置ベクトルを \vec{a} , \vec{b} , \vec{c} を用いて表しなさい。

- | | |
|--------------------------------|--------------------------------|
| (1) 線分 AB を $3:2$ に内分する点 D | (2) 線分 CA を $1:2$ に内分する点 E |
| (3) 線分 AB を $5:2$ に外分する点 F | (4) 線分 BC を $3:4$ に外分する点 G |
| (5) 線分 AB の中点 M | |

[答 案]



第2章 平面上のベクトル 2・ベクトルと図形

1 位置ベクトル (その1)

(4/8) ■ 分点の位置ベクトル ■

◇ 《分点の位置ベクトル》 **学力化** → /

★演習★【1】

3点A(\vec{a}), B(\vec{b}), C(\vec{c})について, 次の点の位置ベクトルを \vec{a} , \vec{b} , \vec{c} を用いて表しなさい。

- (1) 線分ABを2:1に内分する点D
- (2) 線分BCを3:2に内分する点E
- (3) 線分ABを3:2に外分する点F
- (4) 線分BCを2:5に外分する点G
- (5) 線分CAの midpoint M

[答 案]

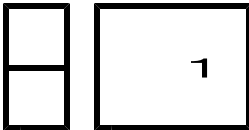
◇ 《分点の位置ベクトル》 **学力化** → /

★演習★【2】

3点A(\vec{a}), B(\vec{b}), C(\vec{c})について, 次の点の位置ベクトルを \vec{a} , \vec{b} , \vec{c} を用いて表しなさい。

- (1) 線分ABを1:3に内分する点D
- (2) 線分CAを5:3に内分する点E
- (3) 線分BCを3:1に外分する点F
- (4) 線分BAを1:2に外分する点G
- (5) 線分BCの midpoint M

[答 案]



第2章 平面上のベクトル 2・ベクトルと図形

1 位置ベクトル (その1)

(5/8) ■ 分点の位置ベクトル ■

位置ベクトルが表す点の位置

◇ 《位置ベクトルが表す点の位置》 学力化 → / .

★解法の技術★

平面上に△ABCと点Pがあって、 $5\overrightarrow{PA} + 3\overrightarrow{PB} + 4\overrightarrow{PC} = \vec{0}$ が成り立つとき、点Pはどのような位置にあるか。

【考え方】位置ベクトルの基点をAとして、 \overrightarrow{AP} を \overrightarrow{AB} 、 \overrightarrow{AC} で表す。

[考える手順]

- 1 位置ベクトルを定義
- 2 ベクトルを位置ベクトルで表示できる形に分解
- 3 ベクトルを位置ベクトルで表し、 \vec{p} について解く
- 4 点Pの位置ベクトルより点Pの位置を説明する

[答 案]

$$\overrightarrow{AB} = \vec{b}, \overrightarrow{AC} = \vec{c}, \overrightarrow{AP} = \vec{p} \text{ とする。}$$

$$5\overrightarrow{PA} + 3\overrightarrow{PB} + 4\overrightarrow{PC} = \vec{0} \text{ より、}$$

$$5\overrightarrow{PA} + 3(\overrightarrow{AB} - \overrightarrow{AP}) + 4(\overrightarrow{AC} - \overrightarrow{AP}) = \vec{0}$$

$$5(-\vec{p}) + 3(\vec{b} - \vec{p}) + 4(\vec{c} - \vec{p}) = \vec{0}$$

$$-5\vec{p} + 3\vec{b} - 3\vec{p} + 4\vec{c} - 4\vec{p} = \vec{0}$$

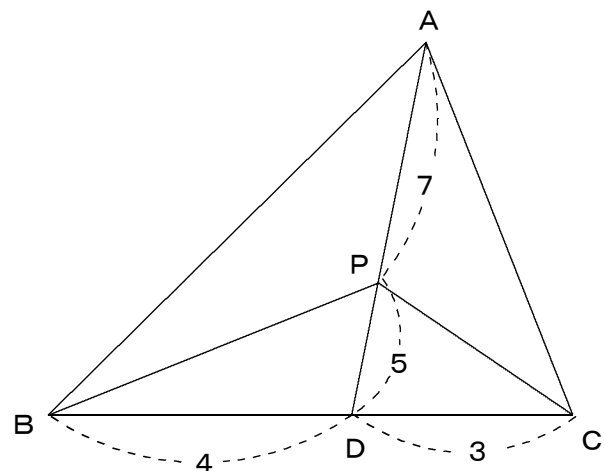
$$-12\vec{p} = -3\vec{b} - 4\vec{c}$$

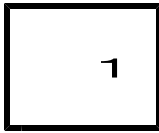
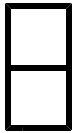
$$\vec{p} = \frac{3\vec{b} + 4\vec{c}}{12} = \frac{7}{12} \times \frac{3\vec{b} + 4\vec{c}}{4+3}$$

◀線分が4:3に内分されると、分母は4+3=7となる

$$\text{辺BCを4:3に内分する点をDとすると、} \overrightarrow{AP} = \frac{7}{12} \overrightarrow{AD}$$

よって、辺BCを4:3に内分する点をDとすると、
点Pは、線分ADを7:5に内分する位置にある。





第2章 平面上のベクトル 2・ベクトルと図形

1 位置ベクトル (その1)

(5/8) ■ 分点の位置ベクトル ■

位置ベクトルが表す点の位置

◇ 《位置ベクトルが表す点の位置》 学力化 → / .

★解法の技術★【別解】

平面上に△ABCと点Pがあって、 $5\overrightarrow{PA} + 3\overrightarrow{PB} + 4\overrightarrow{PC} = \vec{0}$ が成り立つとき、点Pはどのような位置にあるか。

【考え方】位置ベクトルの基点をAとして、 \overrightarrow{AP} を \overrightarrow{AB} 、 \overrightarrow{AC} で表す。
小文字の位置ベクトルに置き換えないで説明してみます。

[答 案]

① (点Aを基点とした位置ベクトルでかき変える)

$$5\overrightarrow{PA} + 3\overrightarrow{PB} + 4\overrightarrow{PC} = \vec{0} \text{ より,}$$

$$5\overrightarrow{PA} + 3(\overrightarrow{AB} - \overrightarrow{AP}) + 4(\overrightarrow{AC} - \overrightarrow{AP}) = \vec{0}$$

◀ 後一前 (No.1(1/8)を参照)

② (式を整理し、 \overrightarrow{AP} について解く)

$$-5\overrightarrow{AP} + 3\overrightarrow{AB} - 3\overrightarrow{AP} + 4\overrightarrow{AC} - 4\overrightarrow{AP} = 0$$

$$-12\overrightarrow{AP} = -3\overrightarrow{AB} - 4\overrightarrow{AC}$$

$$\overrightarrow{AP} = \frac{3\overrightarrow{AB} + 4\overrightarrow{AC}}{12} = \frac{7}{12} \times \frac{3\overrightarrow{AB} + 4\overrightarrow{AC}}{4+3}$$

◀ 線分が4:3に内分されると、分母は4+3=7となる

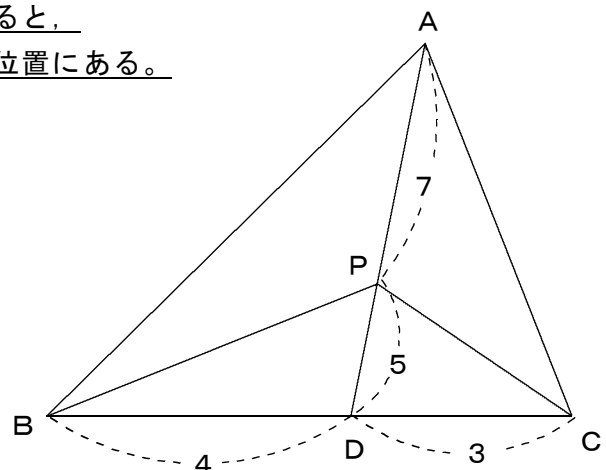
③ (点Pの位置を読み取る)

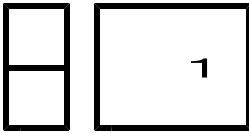
辺BCを4:3に内分する点をDとすると、

$$\overrightarrow{AP} = \frac{7}{12} \overrightarrow{AD} \quad \leftarrow \frac{3\overrightarrow{AB} + 4\overrightarrow{AC}}{4+3} = \overrightarrow{AD}$$

よって、

辺BCを4:3に内分する点をDとすると、
点Pは、線分ADを7:5に内分する位置にある。





第2章 平面上のベクトル 2・ベクトルと図形

1 位置ベクトル (その1)

(6/8) ■ 分点の位置ベクトル ■

◇ 《位置ベクトルが表す点の位置》 **学力化** → / ,

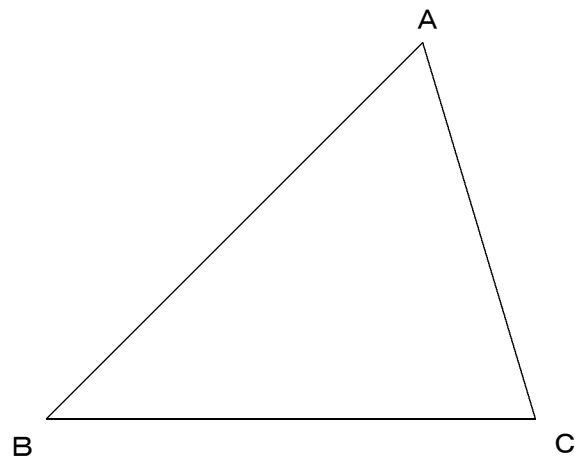
----- ★理解のチェック★ -----

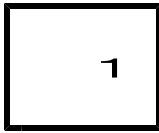
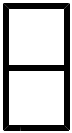
$\triangle ABC$ と点Pに対して、 $6\overrightarrow{AP} + 3\overrightarrow{BP} + 2\overrightarrow{CP} = \vec{0}$ が成り立っている。点Pの位置をいいなさい。

【考え方】位置ベクトルの基点をAとして、 \overrightarrow{AP} を \overrightarrow{AB} 、 \overrightarrow{AC} で表す。

[答 案]

$\overrightarrow{AB} = \vec{b}$ 、 $\overrightarrow{AC} = \vec{c}$ 、 $\overrightarrow{AP} = \vec{p}$ とする。





第2章 平面上のベクトル 2・ベクトルと図形

1 位置ベクトル (その1)

(7/8) ■ 分点の位置ベクトル ■

◇ 《位置ベクトルが表す点の位置》 **学力化** → / ,

★演習★【3】

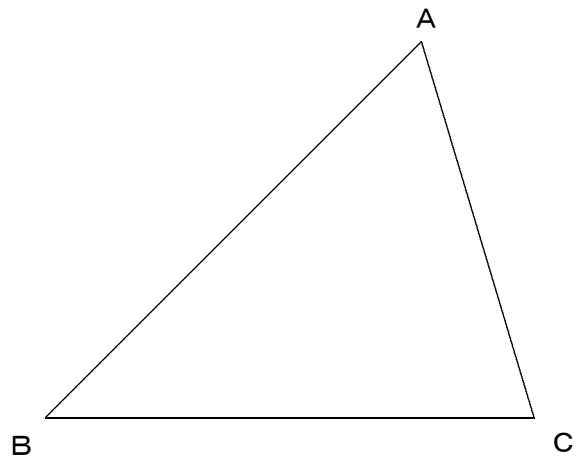
平面上に△ABCと点Pがあつて、次の等式を満たすとき、点Pはどのような位置にあるか。

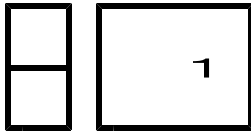
$$2 \overrightarrow{PA} + 3 \overrightarrow{PB} + \overrightarrow{PC} = \overrightarrow{0}$$

【考え方】位置ベクトルの基点をAとして、 \overrightarrow{AP} を \overrightarrow{AB} 、 \overrightarrow{AC} で表す。

[答 案]

$\overrightarrow{AB} = \vec{b}$ 、 $\overrightarrow{AC} = \vec{c}$ 、 $\overrightarrow{AP} = \vec{p}$ とする。





第2章 平面上のベクトル 2・ベクトルと図形

1 位置ベクトル (その1)

(8 / 8) ■ 分点の位置ベクトル ■

◇ 《位置ベクトルが表す点の位置》 **学力化** → /

★演習★【4】

△ABCと点Pに対して、次の等式が成り立つとき、点Pはどのような位置にあるか。

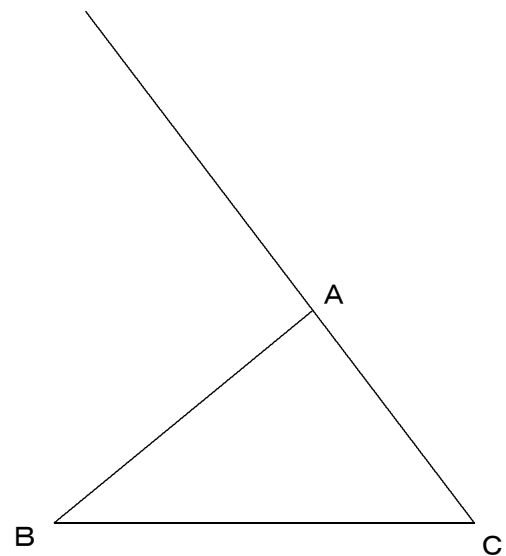
(1) $3\overrightarrow{PA} = 2\overrightarrow{AC}$

(2) $\overrightarrow{PA} + \overrightarrow{PB} + \overrightarrow{PC} = \overrightarrow{BC}$

[答 案]

$\overrightarrow{AB} = \vec{b}$, $\overrightarrow{AC} = \vec{c}$, $\overrightarrow{AP} = \vec{p}$ とする。

(1)



(2)

